

水稻・麦・大豆栽培情報 8月号－2

平成 27 年 8 月 18 日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水稻】

1 病虫害防除

中干しが強いほ場や葉色が濃い圃場において、葉いもちの発生が見られています。トビイロウンカは、現在のところ少ないですが、気象条件等により急激に増殖しますので確実に防除を行ってください。

※基本防除は以下のとおりとなっています。

品種	予想出穂期	使用薬剤及び使用量	防除時期
元気つくし	8月22日頃	ブラシンバリダ ジョーカー粉剤DL 4kg/10a	8月25～30日
ヒノヒカリ	8月28日頃		8月28～ 9月2日
ヒヨクモチ	9月7日頃	スタークル粉剤DL 3kg/10a	9月15～18日

※ 予想出穂期の目安は、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」・「ヒヨクモチ」が6月24日頃移植の場合です。

※ 出穂期とは、ほ場の40～50%程度が出穂した日のことです。

※ 「ヒヨクモチ」において、葉いもちが見られる場合は、ビーム粉剤DL(4kg/10a)を8月末～9月初旬(出穂前)に散布します。なお、「ヒヨクモチ」は減農薬のため、補正防除は2回までです。いもち剤の散布を行うと、補正防除はあと1回になります。

2 水管理

出穂期前後5日程度は、水稻の生育期間中で水を最も必要とする時期です。土壌が乾燥すると減収につながりますので、十分に水をためておいて下さい。出穂期以降は、根の機能維持のため、間断灌水を行います。

【大豆】

病虫害防除

8月3半旬にフェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺数が増加していることから、下表の期間に防除を行い、ハスモンヨトウによる被害を抑制しましょう。

[1回目防除]

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	8月22日 ～27日	ノーモルト乳剤又は アタブロン乳剤 2000倍	100L

※散布に際しては、ほ場により発生状況が異なるため、幼虫の小さい時期を確認し適期防除を行って下さい。

[2回目防除]

1回目の後、概ね2週間後がハスモンヨトウの防除適期となりますが、状況により前後します。また、ミナミアオカメムシの防除適期は開花期20～30日後の9月中旬頃です。ハスモンヨトウの防除と合わせて必ず実施しましょう。

対象病害虫	防除適期	使用薬剤及び 希釈倍数	使用液量 (10a)
ハスモンヨトウ	9月中旬頃	ペガサスフロアブル 2000～4000倍 又は プレバソンフロアブル5 4000倍	100L
カメムシ類		スミチオン乳剤 1000倍	100L
紫斑病		トップジンM水和剤 1000～1500倍	100L

※薬剤は葉の表裏にしっかりかかるように散布しましょう。

※なお、一部地域ではハダニ類が発生する場合がありますので、多発時はダニトロンフロアブル（1000倍、使用液量150L/10a）で補正防除して下さい。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル(使用基準)を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！